

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策)
① 組織的なキャリア教育の取り組みの推進	① 保護者が興味を持って参加できる進路に関する講演会を年2回行う。	進路に関する講演会(2回)の参加率が A:70%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満	1回目 56% 2回目 12% 平均34% で C	【分析】今年度の進路講演会は市の福祉課職員を講師に招き、いろいろなサービスや障害者年金などの話をしてもらった。保護者の反応はまずまずだった。2回目の講演会は生徒と保護者対象で卒業生と福祉課職員が話をしてよかったが時期がよくなかったためか保護者が少なかった。 【次年度の扱い】来年度の講演会は開催時期、講師などを考慮しながら開催したい。
	② 児童生徒の挨拶等の社会的マナーの向上を図る。	朝の挨拶ができる児童生徒の割合が、 A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	100% で A	【分析】1年を通じて朝の挨拶を自分からする子が19%から62%に増え、人に言われてもしない子はなくなり、促されて挨拶する子の38%とあわせて朝の挨拶ができる児童生徒の割合は、100%であった。 【次年度の扱い】社会的マナー等で児童生徒の実態を再点検し、あまりできていないところを取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部から進路に関する講演会を保護者が聞くように働きかけがあるとよい。</li> <li>・マナーについての取組は良いことであり、ますます向上させてほしい。</li> </ul>		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路講演会は、開催時期、講師など保護者のニーズを考慮して開催する。</li> <li>・社会的マナー等で児童生徒の実態を再点検し、あまりできていないところを取り組んでいく。</li> </ul>		
② 地域のニーズに応じた教育相談の充実及び地域支援ネットワークの活用	① 専門相談に際して事前シートを活用し、小中高校において特別支援教育を推進する力の向上を図る。	事前シートを活用した専門相談の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	81.4% で B	【分析】検査依頼・結果説明に際しては事前シートがないのが大半である。検査以外の相談では、事前シートの提出が8割を超えている。事前シートの記入があることで、小・中学校のコーディネーターには、校内での事前の取り組みが促進されたと思う。 【次年度の扱い】今後も継続し、定着を図りたい。
	② 市町教育委員会と連携して、地域の小中高校職員に対し、特別支援教育への理解を推進するための研修会を実施する。	教育委員会と連携して開催した対外的研修会の回数が A:6回以上 B:5回 C:4回 D:4回未満	5回 で B	【分析】コーディネーター研修会を1回、教材教具発表会を1回、文科省事業の専門性向上講演会を3回、市町教育委員会を通して案内を配付した。文科省事業の講演会では日程を市町と調整することが難しく、参加者が少なかった。 【次年度の扱い】年度末に小中高校にアンケートを実施して各校のニーズを把握し、次年度の計画に活かしたい。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前シートの活用はとても良いので、継続して取組を進めてほしい。</li> <li>・地域の小中高校職員に対し、特別支援教育への理解を推進するための研修会は、教育委員会や校長会の後押しがあればよい。</li> </ul>		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前シートの活用を今後も継続し、定着を図る。</li> <li>・小中高へアンケートを取り、各校のニーズを把握し、次年度の計画に活かしていく。</li> </ul>		

重点目標		具体的取り組み	実現状況の達成度判断基準	期末結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策)
③	特別支援教育の専門性と授業力を高める校内研究の推進と充実	① 外部講師を招いた研究授業を通して、課題を明らかにし、授業改善を図る。	授業力向上のための研究授業を、各学部ごとに3回以上、総合計で A: 10回以上 B: 9回 C: 8回 D: 7回以下	16回で A	【分析】教科指導等研究会と県教育センターの校内サポート研修の活用で全学部2回ずつ研究授業を行った。また9月にフォローアップ研修会を、また自立支援課の外部専門家活用事業で、のべ9回の研究会を持った。 【次年度の扱い】今後も専門性と授業力向上に努めたい。
		② 障害特性や個に応じた教材・教具の開発を図る。	個人や複数で制作した教材・教具の発表回数が、総合計で A: 25回以上 B: 20回 C: 17回 D: 16回以下	23回で B	【分析】学期ごとに、各自が制作した教材教具について発表する会を持つことができた。教具を前に、使い方や目的などについて説明することができた。活発な意見交換の場になった。 【次年度の扱い】毎年積み重ねて行くことで、意識改革を図ったり学校全体の財産になったりするよう、次年度も取り組みたい。
学校関係者評価委員会の評価			<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業がよく行われ、授業改善が行われている。</li> <li>児童生徒に合わせた教材づくりがされている。児童生徒に合わせた教材づくりをし、長所を伸ばし進路につなげてほしい。制作した教材教具を依頼があれば貸し出ししていい。</li> </ul>		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策			<ul style="list-style-type: none"> <li>専門性と授業力向上のため、研究授業を充実させていきたい。</li> <li>製作した教材教具が財産として活用していけるよう取組を充実させていきたい。</li> </ul>		
④	学校安全教育及び環境教育の推進	① 火災避難・地震避難、捜索訓練、AED・救急法講習、交通安全、不審者対応等の防災訓練に外部講師を招聘し、最新の情報を得るとともに、防災能力の向上を図る。	全6回の内、外部講師の指導を実施できた回数が A: 5回以上 B: 4回 C: 3回 D: 2回以下	5回で A	【成果】外部講師を招聘し計5回の訓練、講習を実施することができ、A目標を達成することができた。 【課題】地震避難等で緊急放送をする時に、ガラスが割れた音等の効果音があれば、緊迫感が生じてより良い訓練となる。次年度は訓練の質の向上を今年度の反省を踏まえて実施していきたい。
		② 環境教育の授業を校内で実践し一人一人のエコ意識を高め、環境意識の高揚を図る。	環境教育授業の実施できた合計回数が A: 5回以上 B: 4回 C: 3回 D: 2回以下	4回で B	【成果】環境教育活動を小学部、中学部、高等部合わせて4回実施することが出来た。内容は小学部はエコのプレゼンとエコスローガン作り。中・高等部がグリーンカーテンづくりを3回行った。 【課題】次年度の取り組みにより、今年度の反省を踏まえ、5回以上の取り組みでA評価を目指したい。
学校関係者評価委員会の評価			<ul style="list-style-type: none"> <li>防災訓練が反省に基づいて行われている。施設の安全点検を徹底してほしい。</li> <li>原発の避難訓練について行政と連絡を取りながら具体的な訓練をしてほしい。</li> </ul>		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策			<ul style="list-style-type: none"> <li>防災訓練等実際の場面に近いように工夫をしながら質の向上を図っていく。</li> </ul>		